

地域防災は自助と協働



《地域防災の基本》

先ず、自分が無事であること → 自助

共に助け合うこと → 共助

行政機関による手助け → 公助

大切な 『協働』

「協働」

立場が異なる者同士が、共通の目的や目標に向かって、対等な関係で協力し合うこと

協働 連携による地域防災のすすめ

自主防災組織

消防団

防災士

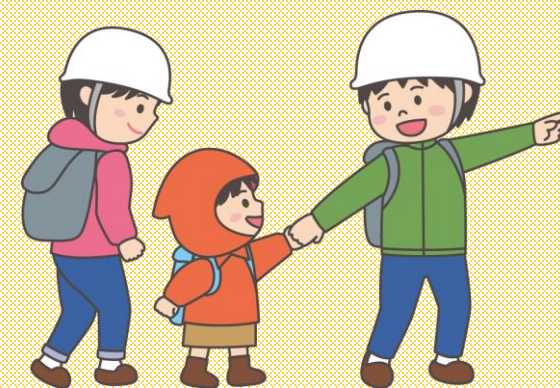
自治会

学校・PTA

企業



行政



《防災の目的》



自然災害や人災などによる被害を予防したり軽減したり
するための活動や施策のこと

◇ 平常時・・・備え 啓発活動

◇ 災害時・・・避難の呼び掛け 誘導 消防協力

自主防災組織の活動が大きな役割を果たす

消防団（員）



消防団は火災や風水害、震災などの災害時に消防活動を行なう非常勤の
地方公務員組織 <地域住民が構成員> <地域に密着した活動>

消防団員の身分は、非常勤(特別職)の地方公務員で、市長村長の承認を
得て消防団長から任命され、上司の指揮監督のもとで活動する

消防職員・・・消防に勤務する公務員の総称 日本では全員が地方公務員
(総務省消防庁職員は国家公務員であるが、消防職員ではない)

自主防災組織(自防組)

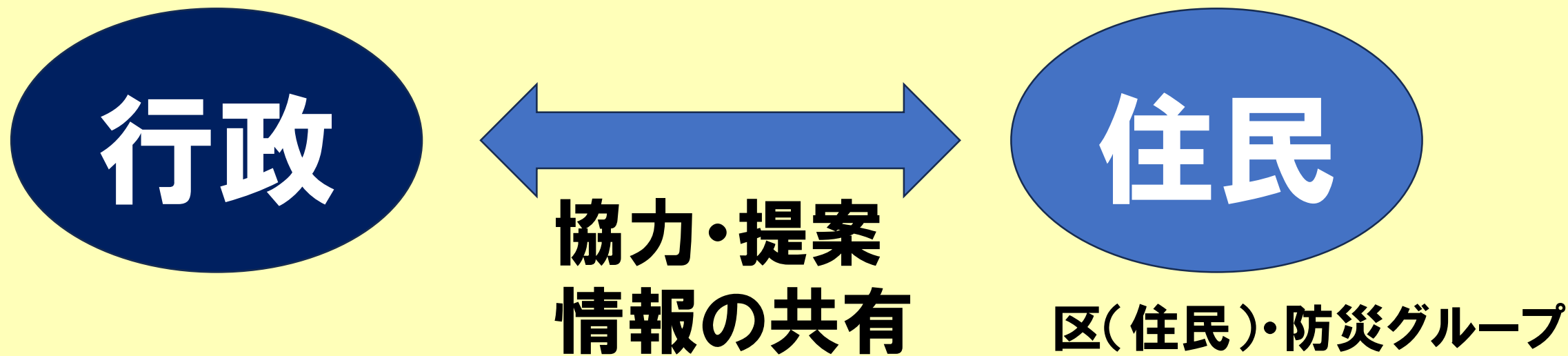
地域住民が協力して災害に備え、災害時には被害を最小限に抑えるために活動をする組織(災害対策基本法第5条2において規定されている地域住民による**任意の防災組織**)

自防組は地域の特性や事情をよく理解しているため、地域の実情に合った応急活動を行なう事が出来る



行政頼りから自主活動へ

行政主導の防災活動 → 住民自らが考え行動する



住民主導型の防災

行政はアドバイス、協力、広報

それぞれの役割

行政(市役所)

市民の生活をより良くするために、様々なことを行う仕事

福祉・防災・産業振興・観光・都市計画・・・幅広く、いずれも市民生活に欠かす事の出来ない重要な役割

災害が起こると職員だけでは対処が間に合わない

市民自らが協力をして難を乗り切らなければならない

『防災は市民一人ひとりが担当者』

防災組織は自分たち自らがつくり上げる



《住民自治組織》

上田市の例

一定区域(地域協議会、自治会連合会、小学校通学区)を範囲として、自治会を核としながら、各種団体が参画・連携・協力し、防犯・防災や地域福祉等の単一の自治会だけでは対応が難しい課題の解決や、地域の特色を生かしたまちづくり取り組む住民参加の組織

◇交付金・地域担当職員の配置により市が支援

各種部会があり、防災部会では防災学習会、講演会、避難訓練、避難所開設訓練など、災害に備える様々な事業を行っている。

指導は行政、**防災士**(県自主防災アドバイザー)や有識者が行いそれぞれの地域に合った活動が続けている。



防災は大切な事 やらなければ・・・



住民自治組織主催の防災マップづくり

※話し合う事で課題が浮き彫りになる



地元消防団による小学校防災教室

発災に備える 《避難誘導》 《避難所開設》

発災時にコア(中心・核)となり活動出来る人材の育成が求められている
研修 訓練を積むことにより地域の防災リーダーとなる



防災人材育成研修会 上田市真田町長(おさ)小学校区

長野県・信州大学共同研究 防災人材育成モデル地区形成事業

発災時に地域のリーダーとなり活動出来るコア人材の育成

モデル地区＝長野市松代地区・上田市真田町長地区を指定

- ・地域の危険箇所・きまりづくりと課題の研究⇒避難ルートマップづくり
- ・研修／訓練⇒(長小学校体育館)避難所開設～受入訓練(開設訓練)

～避難所運営訓練

- ◇学校を知る⇒校内外の視察 使える備品、場所の確認
- ◇防災倉庫の備蓄品の確認 開設、運搬方法
- ◇行政 学校(学校長)の協力の下、視察と研修



防災を推し進めるためには

集まる

地域住民 団体組織（区民 **防災士** 消防団）

話す

災害に備え何が必要か（人 物 きまり 予算）
発災時の行動（避難の呼び掛け～誘導）

訓練

情報伝達訓練 避難訓練 避難所開設訓練

防災士の役割



1 地域住民の防災意識の向上

2 自主防災組織の活性化のためのアドバイス

3 地域と行政のパイプ役

そのために

- ◇ 専門知識の習得（個々に専門知識を持つ）
- ◇ ハザードマップの現場視察（自分の目で見える）
- ◇ 災害に関する法律の熟知 必修
（災害対策基本法 他）



防災士が新感覚で活動



「上田市防災士等連絡協議会」を結成

防災士 元消防団員 自衛官OB 医師 介護士 ドローン操縦士 メディア、他
防災士に限らず各分野から構成 ボランティアとして活動

有識者(工学博士・技術士・大学教授)が相談役顧問

◇地元ケーブルテレビでの防災番組出演 住民自治組織と共催協力で各種
防災研修会、防災講演会の企画指導等を行っている。

◇行政との定期的な情報交換会議の開催、長野県自主防災アドバイザー
として自治会自主防災組織の活性化のための支援を継続し行っている。

信州防災「逃げ遅れゼロ」プロジェクトに平行した地域防災を目指す

防災は市民一人ひとりが担当者

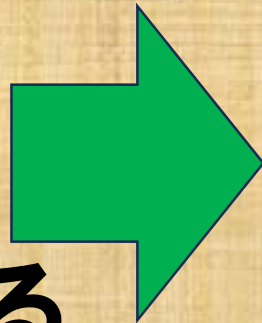
ハザードマップで地域の危険性を知る

天気情報に気を配る

災害をシミュレーションする

災害時に必要な物を備える

- ✿ 地域で話し合う
- ✿ 決まりをつくる
- ✿ 研修、訓練をする



必ず起こる災害に備えて



協働防災のために

「上田市自主防災アドバイザー等連絡協議会」の発足 (R6・6)

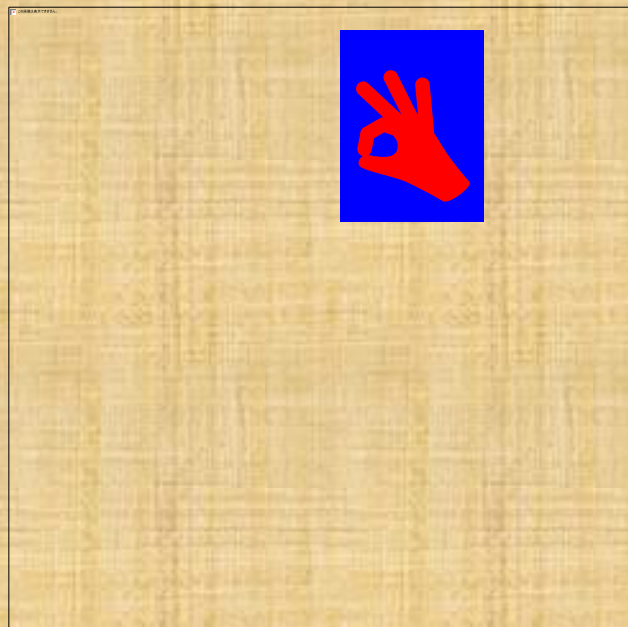
- ・県自主防災アドバイザー(11人)
- ・上田市危機管理防災課(5人)
- ・上田市地域振興課(真田・武石・丸子地域自治センター担当職員)(3人)
- ・上田市消防団(団長 副団長)(2人)
- ・上田地域広域連合消防本部(総務課長・予防課長)(2人)

お聴きいただき有難うございました。

防災に垣根はありません。地域の皆が笑顔で暮らし、万が一の時は助け合える“優しく強い”まちづくりを心がけましょう。

上田防災研究所・たんぽぽ

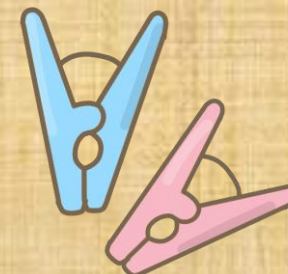
お土産話 避難所で役に立った物 意外なものが必需品



歯ブラシ

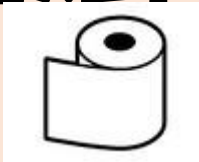


折りたたみ傘



扇子 爪切り
メモ帳 マスク 飴

避難所ではトイレットペーパーが不足？



すぐに無くなるトイレットペーパー

トイレは大切です。「次に使う時に亡くなっていたら困る・・・」と、持ち返ってしまう人がいます。そのためか、“あっ。トイレットペーパーがない😞” という事もたびたび。補給はしているんですが。

《マイトイレットペーパーを準備しましょう。》

（自費で購入したトイレットペーパーだと判る物が有れば、持ち返っても疑われませんね。✳️MTP（マイトイレットとペーパー）印が印刷された・・・）